日本航空株式会社所属
ボーイング式747SR—100型JA 8117
に関する航空事故報告書

昭和51年9月30日
航空事故調査委員会（空委調第154号）

委員長　岡田　實
委　員　山口真弘
委　員　諏訪勝義
委　員　上山忠夫
委　員　八田桂三

1　航空事故調査の経過

1.1　航空事故の概要

日本航空株式会社所属ボーイング式747—200型JA8117は，昭和51年7月30日同社の定期903便として東京国際空港を離陸し，那覇空港に向け飛行中，旅客の1名が病死した。

1.2　航空事故調査の概要

昭和51年8月2日　　事実調査

2　認定した事実及び認定した理由

JA8117は，7月30日旅客515名（うち幼児22名）乗組員18名がとう乗し，13時24分東京国際空港を離陸し，那覇空港に向け飛行中，14時18分ころ旅客の1名（66才男）の容態が急変した。

客室乗務員は機内放送により医師及び看護婦の援助を要請すると共に酸素吸入を行った。

まもなく旅客の看護婦から援助の申し出があり，心臓マッサージを実施するよう助言を得て

実施したが，１４時２０分ころ鹿児島南東１３０海里付近上空で死亡した。

同機は１５時３４分那覇空港に着陸した後，警察の法医学顧問である医師による検案が行われ，その結果は全身衰弱による病死であった。

同旅客は７月２８日日航１００７便でブラジルサンパウロからニューヨーク経由，7月30日０７時０４分東京に到着して休養をとり，当該機で沖縄に帰る途中であった。

同人はサンパウロの病院で胃ガンの診断をうけていた。

3　結　　論

原　因

本事故は，とう乗中の旅客が全身衰弱により病死したことによるものと認められる。